

- 1 開催日時 令和6年9月30日（月）午後2時～3時30分
- 2 開催場所 市役所本庁舎2階災害対策室2・3
- 3 出席者 小川委員長、阿部副委員長、板橋委員、清水委員、駒村委員、
齊藤委員、山崎委員、押田委員、小水内委員、染谷委員、宇津野委員、
北村委員、今委員、桐山委員、中村委員
- 4 欠席者 なし
- 5 事務局 今井市民環境経済部長、元田産業振興課長、富澤商工振興係長、牧野
（株）NTTデータ経営研究所 瀬田川様
- 6 傍聴者 2名
- 7 議題

- （1）産業振興ビジョンについて
- （2）第2次産業振興ビジョン（仮称）改定 スケジュールについて
- （3）アンケート（案）について

8 議事内容

○事務局（富澤）

それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和6年度第1回白井市産業振興ネットワーク会議を開催いたします。

着座にて進行を進めさせていただきます。

委員の皆様におかれましては、御多忙のところ御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

本日の進行を務めさせていただきます産業振興課の富澤と申します。よろしくお願いいたします。

初めに、定足数について報告いたします。1名の委員が遅れるという旨を聞いておりますが、委員定数15名のうち、本日の出席委員は14名です。過半数を超えており定足数に達しておりますので、白井市産業振興ネットワーク規則第3条第2項の規定により会議は成立するものと報告いたします。

本日の会議資料につきましては、あらかじめ委員の皆様へ郵送しておりますが、資料のお忘れはないでしょうか。もしも今日忘れてしまったということでしたら、挙手していただければ、御用意してありますので、お申し出ください。

改めまして、本日の資料について確認させていただきます。本日の資料は、A4、1枚の会議次第、会議資料及び補足資料として、資料1が議題1、産業振興ビジョンについて、資料2が総合計画と分野別個別計画、資料3が白井市第2次産業振興ビジョン（仮称）改定スケジュール、資料4が各種アンケート分析観点、資料5－1が市民向けアンケート

(案)、資料５－２が農業事業者向けアンケート(案)、資料５－３が商業・製造業向けアンケート(案)、資料６が白井市産業振興条例、資料７が白井市産業振興ネットワーク規則、資料８が改定支援業務委託仕様書、机の上に置いてありますのが委員名簿、本日のタイムスケジュールとなります。不足している資料はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

続きまして、会議に先立ち、本日のスケジュールをお知らせいたします。

お手元の会議次第にありますように、本日の議題は、令和８年４月施行予定の白井市第２次産業振興ビジョン(仮称)の概要、今後の策定スケジュール、アンケートの内容についての説明、その他ということで、次回の会議日程をここで決定させていただければと考えております。

なお、議事進行につきましては、委員長にお願いしたいと思います。

会議終了時間につきましては、おおむね１６時頃には終了したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、小川委員長から御挨拶をいただきたいと思います。

小川委員長、よろしくお願いいたします。

○小川委員長

白井市産業振興ネットワーク会議にて委員長を拝命いたしました千葉大学の小川でございます。

この会議は、既に御承知だと思いますが、国道１６号と国道４６４号に挟まれた好立地にある白井市の産業振興について、皆さんの意見を募りながら市政に反映させるという内容になっております。ぜひとも、忌憚のない意見を交わした上で、市政に反映できるように、皆さんの意見を集約して参りたいと思います。

本日、限られた時間ではございますが、精一杯司会進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○事務局

小川委員長、ありがとうございました。

続きまして、委員の皆様方に市民環境経済部長の今井より、挨拶を申し上げます。

今井部長、よろしくお願いいたします。

○事務局(今井)

４月から市民環境経済部長に異動となりました今井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

皆様には、日頃、市行政運営に御理解、御協力いただきましてありがとうございます。

今年度、第１回目の会議となります。現行の白井市産業振興ビジョンは、令和７年度に計画期間が終了することから、次期計画策定に当たりまして、本市の特性や強み、現状と課題を多面的、多角的に検証するため、アンケート調査を行い検討していくこととしてお

ります。委員の皆様には、忌憚のない御意見を頂きたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

○事務局

今井部長、ありがとうございました。

ここで、人事異動に伴い、今年度より新たに学識経験者枠である公益財団法人千葉県産業振興センター総務企画部企画調整課課長、阿部健一様が、前任の●●様に代わり委員となりました。お名前をお呼びいたしますので、自己紹介をお願いいたします。

では、阿部委員様、よろしくお願いいたします。

○阿部委員

産業振興センターの阿部と申します。4月1日から企画調整課に異動になりました。よろしくお願い致します。

○事務局

阿部委員、ありがとうございました。次に、市職員の紹介をさせていただきます。皆さんより見て右側より、市民環境経済部長の今井です。

○事務局（今井）

よろしくお願いいたします。

○事務局

続いて、産業振興課長の元田です。

○事務局（元田）

この4月から産業振興課長になりました元田と申します。よろしくお願い致します。

本日の会議ですが、こちらの不手際で日程調整がなかなかうまくいかず、月末のお忙しい中御出席いただきまして、ありがとうございます。委員全員の皆様が御出席いただきましたので、少しでも、皆様の意見が反映できるような形で進めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願い致します。

○事務局

私を飛ばしまして、商工振興係の牧野です。

○事務局（牧野）

商工振興係の牧野と申します。本日は、お忙しい中御出席いただきまして、皆様ありがとうございます。本日はよろしくお願いいたします。

○事務局（富澤）

最後に、本日の進行を務めます商工振興係の富澤と申します。よろしくお願い致します。

なお、今回の会議では、改定委託契約事業者の瀬田川さんがZ o o mにて参加しております。モニターで参加する形になっておりますので、よろしくお願い致します。

続きまして、副委員長である●●委員が異動に伴い委員を抜けられたことから、新たに

副委員長の選出をさせていただきたいと思います。

副委員長の選出につきましては、白井市産業振興ネットワーク規則第2条の規定により、委員の互選となっておりますので、委員の皆様から、副委員長の選出の御発案をお願いしたいと思います。

委員の中で立候補される方、または推薦等ございましたら、お願いいたします。

○委員長

多分、発言が出にくいと思うので委員長のほうから推薦させていただきたいのですが、これまでの慣例に従って、副委員長には、学識経験者枠である阿部様を推薦したいと思います。いかがでしょうか。

○事務局

はい。阿部委員いかがでしょうか。

○阿部委員

よろしくお願いします。

○事務局

ありがとうございます。それでは、副委員長については、阿部様に決まりました。これからよろしくお願いいたします。

ここで、阿部副委員長様から御挨拶ということで、改めてお願いしたいと思います。簡単に結構です。お願いいたします。

○副委員長

後任ということで副委員長にならせていただきました。いろいろと知らないことも多いと思いますが、参加させていただいて、白井市のことをより良くしていこうと思いますので、よろしくお願いします。

○事務局

阿部副委員長様、ありがとうございました。

それでは、ただいまから令和6年度第1回白井市産業振興ネットワークの本会議に入らせていただきます。

会議前に皆様へのお願いとして、録音データで会議録を作成するため、音声で判別のつきにくい発言者のお名前が分かるように、意見を述べる際には手を挙げて、議長に指名をしてもらってから御発言をいただきますようお願い申し上げます。

なお、議長は、白井市産業振興ネットワーク規則第3条の規定により、委員長にお願いいたします。小川委員長、議事進行のほうよろしくお願いいたします。

○委員長

ありがとうございます。

それでは、次第に従いまして、これより議題を進めて参りたいと思います。

お手元の次第にあるとおり、議題は三つございます。最初に（1）産業ビジョンについ

て、事務局に説明をお願いしたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局

議題1「産業振興ビジョンについて」着座にて説明させていただきます。それでは資料1、1ページをご覧ください。

本内容については昨年度に説明していることですので重複となりますが、確認の意味を込めて議題としております。既にご承知の内容と思いますがよろしくお願いいたします。

現在、市はそれぞれの計画に基づいて事業を進めております。総合計画は白井市の行政運営を総合的かつ計画的に推進していくための最上位に位置する計画で「基本構想」「基本計画」「実施計画」の3つで構成されています。長期的なまちづくりの方向性を示し、市民と連携しながらまちづくりを推進するための指針となるものです。

また、行政における各分野には、様々な個別計画がありますが、これらの個別計画は総合計画の基本的方向性に沿って策定し、推進していくものとなります。

中央図の説明をさせていただきます。三角の一番上が「基本構想」で計画期間が平成28年から37年度の10年間となっており、目指す将来像やその実現に向けた基本的な方針など、まちづくりの指針を定めています。

2段目、「基本計画」は「基本構想」に基づき将来像を実現するための具体的な施策です。こちらは前期、後期と5年間となっております。

3段目、実施計画は基本計画で定めた施策に基づき、具体的な事業を定めるものです。こちらも原則は前期、後期と5年間となっております。具体的な事業として、産業・雇用に関する部分については本産業振興ビジョンを策定しております。

総合計画と分野別個別計画については、資料2となりますので、そちらを御覧ください。一番左に総合計画がありまして、その各分野として、上から健康・福祉、学習・教育とあり、その下に産業・雇用があります。健康・福祉の分野についての基幹計画として地域福祉計画があり学習・教育の基幹計画として教育大綱があります。そして、産業・雇用の分野について基幹計画として産業振興ビジョンとなっております。

このように市では、白井市第5次総合計画や産業振興ビジョンに基づいて、地域経済の活性化に向けた様々な取組を行っています。

続きまして、2ページをご覧ください。改めて現行の産業振興ビジョンについて説明をさせていただきます。

産業振興ビジョンは、総合計画後期基本計画の実施計画事業で令和3年12月に策定したものになります。

また産業振興ビジョンは、先ほどご説明させて頂いた総合計画で掲げられている市の将来像である「ときめきとみどりあふれる快活都市」を産業面から達成するために必要な政策の方向性を示すものであり、市の産業分野全般の指針となっています。

次に（２）をご覧ください。計画の基本方針については、農業、商業、工業、観光の４つの産業においてそれぞれ分野別ビジョン及び基本方針を定め、事業を実施するとともにこの４つの産業の連携を促すことで、産業全体で政策効果の極大化を図ることにあります。

続きまして（３）計画期間等について説明いたします。

先ほど、このビジョンは令和３年１２月に策定したとお話ししましたが、計画期間は令和４年度から第５次総合計画の終了となる令和７年度までの４年間となっております。

次期産業振興ビジョンは総合計画の産業分野における基幹計画であるため、その計画の期間は、総合計画との整合性を図るために１０年間として設定しており、基本計画期間である５年ごとに定期見直しを行うことを原則としています。また、総合計画の見直しや、本市を取り巻く社会情勢や産業動向・経済環境の変化を踏まえて、必要に応じて随時見直しを行っていきます。

続きまして、白井市第２次産業振興ビジョン（仮称）改定方針について説明させていただきます、３ページをご覧ください。

今回改定する次期産業振興ビジョンについては、現行の産業振興ビジョンが令和７年度に計画期間が終了すること、また白井市総合計画の計画期間が終了することから新たな計画を定めるものです。

次に策定方針ですが、原則は現行の計画を踏襲することとしています。

策定に当たっては、本市の特性や強み、現状と課題を多面的・多角的に検証するため、前回行っていなかった市民・市内外事業者へのアンケートや現況調査を行い現状と課題の把握に努めます。

計画期間については、令和８年度から令和１７年度とします。本ビジョンは総合計画の産業分野における基幹計画であるため、原則に基づき白井市第６次総合計画との整合性を図り１０年間とします。また中間年度の令和１２年度に見直しを行います。

続きまして、改定作業として現状と課題をまとめ市内外産業の現況と予測、国内外社会、経済情勢、類似計画等の基礎調査、分析、考慮すべき将来変化の整理、庁内調整、特に策定期間が本ビジョンと重なるものとして総合計画、都市マスタープラン、農業振興地域整備計画等との調整をしつつビジョンの方向性を検討します。

また市民参加の手法として、アンケート及びアンケートに基づくヒアリング、パブリックコメント、そして本審議会（白井市産業振興ネットワーク会議）を予定しております。

以上で議題１についての説明を終わります。本議題については、冒頭にも説明いたしたとおり、これから改定作業が本格化することから既にご承知の内容と存じますが、ご確認等ございましたらお願い致します。

○委員長

ただいま事務局から説明がありましたが、説明いただいた第２次白井市産業振興ビジ

ョンは、仮称のものですけれども、市の産業振興事業を行うに当たり、重要なものと位置づけられております。既に令和5年度に説明していただいた内容の確認であることから、皆様のほうがより詳しく了承している内容だと思います。

しかしながら、今後の産業振興ネットワークの議事を進めるために必要になるものでございますので、御不明な点がございましたら確認や、もう少し詳しく聞いてみたいということがあったら、遠慮なく御質問をお願いいたします。いかがでしょうか。質問の際には挙手をお願いいたします。その際、名前を名乗っていただけると助かります。どうぞよろしくお願いします。

では、質問が出ないので、私から幾つか確認させていただきたいのですけれども、よろしいですか。

○事務局

はい。よろしくお願いします。

○委員長

それでは、資料1の2ページ、白井市産業振興ビジョン（現行）の中に基本方針とあるのですが、その基本方針の読み方、確認させていただきたいのですけれども。これは箇条書きなのか、それとも優先順位づけなのか、そのところを確認させてください。

農業、商業、工業、観光とあるのですけれども、全て等しく扱うのか、それとも、メリハリを利かせていることを意図しているのかを改めて確認させてください。

○事務局

今、お話しいただいたものについては、箇条書きとなっております。現行のものについても、メリハリという形ではございません。内容としては、これとこれとこれとこれをやりたいというような形で示したものが現行のビジョンになっておりまして、今後そこをどうするかというのは、議論させていただきたいと思っています。

○委員長

それが第2次産業振興ビジョンを改定するところで議論していくことになるのですか。

○事務局

はい。単純に今回の計画期間が終了することから、今回、第2次の計画をつくっていただきたいと思っております。基本的には、先ほどお伝えしたとおり、踏襲するというのがベースにはあるものの、状況などについては次の会議では示せればと思うのですが、その中で、やってみたけれども、なかなか難しかったよとか、もっとやるべきじゃないかとかという部分が出てくると思いますので、そのあたり、もし優先づけをしていくというようなことが皆さんの中で合意を取られるということであれば、優先づけをした計画をつくれればなと思っています。

○委員長

それに伴って、私は白井市内に在住していないので不勉強で申し訳ないのですが、農業

や商業や工業については、何となく理解はさせていただいているのですけれども、白井の観光は、どこに重点が置かれたものなのか、それについてちょっと教えていただけるとありがたいなと思います。

○事務局

ありがとうございます。観光についてなのですが、ここについては、第2次の改定に関して、非常に大きな検討の内容かなと思っています。

現行の産業振興ビジョンをつくる際には、観光的な視点というのはやはり必要だろうというようなことで、計画の中に位置づけさせていただいて、四つの基本の柱の中の一つに、観光を入れさせていただいたところです。

しかしながら、現状、委員長がお話しいただきましたように、なかなか観光というものをこの数年間の間で打ち出せておらず、次の10年間に、その観光というものをどうするかを考える必要があります。これは次の会議の議題になると思いますけれども、現状について御説明すると、この計画をつくられてからも実質的には、ほとんどないような状態です。

今後も産業振興ビジョンと産業間の連携というのが出てきますので、引き続き観光を入れていくのか、もしくは観光というものについて例えば、既存産業との連携というような形にしていくのか、そのあたりも含めて、次回以降にお話できればなというふうに思っています。現状としては、ほとんどないというのが状況です。以上です。

○委員長

それに合わせて、例えば観光を削除するという考え方もできるし、例えば農業と観光を組み合わせ、農業に集約させていくという考え方もできると思うのですけれども、方向性としては、そういう方針でいいのですか。

○事務局

ありがとうございます。このあたりについては、農業の方ともいろいろお話をしていかなければいけないと思っています。農業と観光をくっつけたらいいじゃないというような形でやっていくにも、農業のほうで、それを受け入れる形ができるかという話もあります。また、工業とくっつけるとか、いろいろあるかもしれませんが、それをいきなり決めても、相手の方との調整等もありますので、そのあたりは、この2年間で決めていければと思っています。

ただ、先ほど言いましたように、観光単体でやるというのが、現状としてはなかなか難しいなと思っていますので、例えば観光農園のような、農業とつながった観光などは、観光の形としては考えられるのかなとは思っています。

どういう形になるかは、この後、皆様とお話をしていく中で、また今回アンケートを実施しますので、そのアンケートなどを踏まえて、そのあたりを決めていければと思っています。次の会議では、方向性についてのお話をこちらから少し提案させていただきたいと

思っています。以上です。

○委員長

あと、最後にもう一点聞きたいのですけれども、白井市を取り巻く外部環境の変化というのは、どこまでを想定しているのかということを伺いたいと思うのです。

昨今、こちらにデータセンターらしき建物ができるわけですね。とすると、そういう事業者とのつながりというのが一つ議論として出てくるのか、もしくは、この地域全体で見ていくと、印西市まで含めて、世界的に注目されている場所ですね。だから、それを踏まえて、もうちょっと大きな話にしていくのか、落としどころの情報をお持ちだったら教えていただきたい。

また、国内事情を見てみると、そのデータセンターに関連することで言うと、国内様々な大学がデータサイエンス学部をつくっているのです。遅ればせながら本学もつくっているのですけれども、国内にある大学に、そこでデータサイエンス学部を4年後に卒業した子たちが、就職でここを目指すような魅力ある産業振興政策をつくるのかということも考えられると思うのですよね。大学を出たのはいいけれど、就職先がなかったでは、話にならないわけじゃないですか。だから、そこまで想定する、そうすると雇用との関わりも出てきます。

しかし、日本全体で見ると、労働生産人口って減っていますよね。そことの兼ね合いもあると思います。その外部環境って、どこまで捉えるのかということはある程度、読めているものがあるのだったら教えていただきたいと考えております。

○事務局

ありがとうございます。外部環境については、まずは人口減少など、そういう白井市の抱える部分というのが、まずあるかなと思っています。

もう一つが、今、産業の分析についてはR E S A Sなどの統計データを使って、国の統計を中心にやっているのですけれども、今回、委託を行っていますので、そのあたりについても分析をお願いしていきたいと思っています、それが今までの部分です。

これからの部分なのですけれども、この計画自体が総合計画とリンクをさせるものなので、白井市の部分を越えてという形はなかなか難しいのかなと思っておりますが、最初にお話がありました立地などのニーズは、具体的には、データセンターの話が幾つか出ているというのは現状としてありますので、そのあたりについては、確定してきたものについては、お伝えすることができると思います。しかしながら未確定のものについては、正直、私たちも分かっていない部分がありますので、そのあたりは担当課を設置しましてやっている部分がありますので、担当課とも連携しながら、話題提供等をさせていただければなと思っています。

この計画については、基本的には白井市の範囲で、方向性については、昨今の産業の変化などというのは、当然反映して見ていく必要は、射程としては見ていく必要があると思

いますけれども、確定的に立てるというのはなかなか難しいのかなというのは、現段階での感覚です。以上です。

○委員長

端的に言うと、はしごを外さないでねって思っています。それが一番怖いから。企業誘致が進んでいないのに、ここで産業振興について、データセンターを中心に誘致するというようなことを上げて、ちぐはぐになってしまいますから、それを避けたいわけなのです。

だから、それは他の課と連携しながら、情報提供していただきながら進めていくということになるわけですね。

○事務局

はい、そのとおりです。

○委員長

分かりました。委員長としては以上です。

ほかに委員の皆様から、何か御意見、御質問等ございますか。

●●委員、お願いします。

○委員

工業の事業者代表で出ております●●でございます。

3 ページ目でございます新たなビジョンの改定方針というところを見ての質問なのですが、新たな計画をつくっていく上で、総合計画との整合性みたいなことがあると思うのですが、総合計画のほうの委員も実はしておりまして、そのときに発言させていただいたのですが、総合計画の戦略が明確でない。アンケートを取って、市民が暮らしやすい豊かな市を目指していくのだというようなお話だったので、それは白井市じゃなくても、鎌ヶ谷市でも柏市でも、アイデンティティーが非常にないねというお話を申し上げたのです。

そこが明確でないと、アンケートを取って、それで案をつくり上げていくというのは、ターゲットが非常に明確ではないので、どこへ行くかがよく分からない。

それで、産業振興課だけじゃなくて、いろいろな行政の課で、その総合計画に向かって第5次の中でいこうということだと思いますけれども、それを戦略をつくるのは誰なんだろう。私なんかは、現市長が打ち上げるべきじゃないかなというふうに思いますし、または、市民、本市の特性や強み、現状と課題というのは、要は、例えばSWOT分析みたいなところで、学識経験者の協力を得ながらつくっていくとか、何かそういう戦略とターゲットがあって初めて方策が出てくるのじゃないかというふうに思うのです。

そのところが十分に、第5次のところを読ませていただいても、この資料2の第5次の総合計画の後に、国土強靱化地域計画であって、その中の産業・雇用というのが、産業振興ビジョンって今回のテーマですよ。その中でうたわれているものは農業ばかりで

すよね。

ですが、ここでは、工業も商業も観光もというテーマがありますから、どこがターゲットなのか、どこが戦略なのか、要は印西市と白井市が競争しているわけですよね。その印西市に負けない白井市をつくっていく、鎌ヶ谷市に負けない白井市をつくっていくというには、どうしてもその戦略が明確でないと、議論がなかなか成熟していかない。議論は回るかもしれませんが、成熟に向かって進んでいかないのじゃないかと、こんな心配をしておりますので、そこが明確であれば、次の策定方針も決まってくるでしょうし、それから策定の仕方、改定作業の仕方という手順も決まってくるのではないかと思いますので、それはアンケートを取って、それを集約して分析すれば出てくるものではないんじゃないかということがございましたので発言させていただきました。以上です。

○委員長

ありがとうございます。事務局、いかがでしょうか。

○事務局

ありがとうございます。このあたりについては、昨年度、お話を少しさせていただいているようではあるのですが、これから実施するアンケートについては、現状把握の一つの方法ですので、あくまでもアンケートだけを基にやるということは、想定はしていません。ただし、現在、統計データとか、そのあたりのデータを見ているので、この中で、委員のおっしゃられたようにターゲットを明確にしていけないと、実効性や評価の部分が分かりづらくなってくる部分があると思いますので、次期計画については、そのあたりは念頭に入れた形で進めさせていただきたいなと思っています。

今、総合計画が動いている最中なので、そのあたりとは、先ほど委員長がおっしゃられたように、方向性を含めてはしごを外さないという形もありますし、何より計画ですから、実施する、それで成果を出すということも一つの大切な観点だと思っていますので、その辺りを踏まえながら計画はつくっていききたいなと思っています。以上です。

○委員長

ありがとうございます。ほかに委員の皆様、いかがでしょうか。●●さん、お願いします。

○委員

市民感覚ですけれども、アンケートを取るというもので、ここの資料3に改定スケジュールのグラフがあるのですが、ビジョンを10年計画で挙げているのは分かるのですが、随分ゆっくりしているなという気がするのです。こんなに世界が変わっている中で、言い方悪いですが、ちんたらしていいの？と思うのです。これは、民間の企業だったら、とてもこんなふうに、例えばアンケートを作成して、それを配って、回収して、分析するというのに、これ1年かけるというようなことですよね、この表からいうと。

これって、国勢調査なんかは年度かけてやることなので分かるのですが、もう少し小規

模の白井市においては、もう少し頑張って、長期計画と一緒に、ちょっと急がなきゃいけないこともあるんじゃないかと思うのですけれども、どうでしょうか。

○委員長

ありがとうございます。事務局、いかがでしょうか。

○事務局

こちらについては、スケジュールはこの後、御説明させていただきますので、内容としては、そのとき、また改めて回答させていただければと思います。

アンケートについては、次の会議を12月ぐらいに予定していますが、その中でアンケートの結果については、お伝えできるのかなと思っていますので、アンケートは1年をかけて実施するというものではございません。

ただ、計画については、大変申し訳ないのですけれども、今回策定する計画は、次の計画という形になっていますので、現状として今この計画をつくっている最中も計画事業は動いていますので、このあたりについては、また後ほど説明を聞いて、私たちの言っている意味とちょっと違うような今の御意見とかがあれば、改めて伺いたいなと思っています。

○委員長

では、ほかの委員の皆様、いかがですか。●●委員、お願いします。

○委員

●●でございます。個人的な意見なのですが、アンケートを見させていただくと、これは別にアンケートを取らなくても、調べれば分かるんじゃないのと。特に市民向けアンケートについては、多分、源泉徴収票を見れば、どこに勤めているのかとか分かるでしょうし、多分、そこに住所が入って、白井市さんが持っているデータで、ほぼほぼ分かる内容かなと思うのです。

あとは、農業の方につきましても、私も何件か取引先に梨農家さんあるのですけれども、直接行くと、若い方がやっている梨農家さんもあれば、結構高齢で自分たちの代で終わらせてしまうという方もいらっしゃるのですけれども、そこに足を運んでちょっと聞けば、これもわざわざアンケート取らなくても分かってしまう内容かなと。

商業と工業につきましても、工業団地のほうでいろいろ話を聞けば、アンケートを取らなくても、白井市さんが進むべき道というのが多分、見えてくるはずで、見えてきたものをこうしたいとか、今一番最重要で考えること、例えば企業誘致をしたいとかいうことであれば、それを優先的にやるとかしたほうが、どっちつかずで、範囲が広過ぎて何も決まらないまま、1年、2年たってしまうのじゃないかなと、すごく今日感じました。以上でございます。

○委員長

ありがとうございます。今の質問の内容ですけれど、アンケート調査をやるよりも、現

地にヒアリング調査に行ったり、白井市の中にあるデータを精査すれば、そっちのほうがより確度の高い有効な提案が出てくるのじゃないかというお話だと承りましたが、そういう理解でいいですよ。ありがとうございます。そういう話もあるということで。

○事務局

分かりました。

○委員長

これは、今すぐ事務局のほうで答えられるような内容ではないから、あとは事務局でちょっと検討してみてください。

○事務局

了解いたしました。ありがとうございます。

○委員長

議案1については、これでよろしいですか。ありがとうございました。

では続きまして、議題の2、第2次産業振興ビジョン（仮称）改定スケジュールについて、事務局の説明をお願いします。

○事務局

それでは議題2について説明させていただきます。資料3をご覧ください。

スケジュール表の見方ですが、プロポーザル終了の令和6年7月から令和7年度の2か年を表記させて頂いております。左列が作業内容で右に伸びる矢印はそれぞれの作業内容の実施予定期間になります。

まず、これまでの経緯についてお話しします。

今回の計画の改定にあたっては現状の課題の把握に、努めることとしています。そこで、分析作業を精緻に行う為、計画の改定作業の一部を委託しています。

委託業者選定の為6月にプロポーザル審査を行い、応募のあった3者の中から瀬田川様の所属しております株式会社N T T経営研究所を委託業者として選定しました。

その後、7月から9月にかけてスケジュールのすり合わせ、現状分析の為のアンケート作成にあたっての考え方の共有の他、国の統計情報を活用した市経済循環構造、産業構造、産業ごとの特徴の整理、業界紙などからの将来予測や産業ごとに政治・経済・社会・技術の観点でリスクを抽出し事業者向け、消費者向けの論点整理とアンケート（案）の作成を行っております。

そして今回、内容を審議頂いた上でアンケートを実施することとなります。そして、12月に予定しておりますが、第2回ネットワーク会議でアンケート結果報告と新ビジョンの方向性を決めさせていただき、現状と課題、基本方針を第3回会議で決定します。

ここまでの令和6年度のスケジュールとなります。

令和7年4月から素案を策定し、パブリックコメントを行いその対応、その後、次期総合計画含めた他計画と第2次産業振興ビジョンの最終調整報告をさせていただくという

2か年でのスケジュールとなります。

次期ビジョンの策定方針を踏まえ、市内事業者や被雇用者・消費者である市民の課題を十分に把握する必要があることから、調査・分析に充てる期間を4か月間確保しており、事業者・市民の意見を十分に反映したビジョンにするために、パブリックコメントの収集期間及びその後の修正期間を十分に確保しているスケジュール設定となっております。

スケジュール表の最下段に、ネットワーク会議日程（案）を示させて頂いております。年度あたり3回、重要な意思決定のタイミングにおいて会議を開催させていただき審議頂ければと事務局は考えております。

以上がスケジュールの御説明になります。

○委員長

ただいま事務局から、第2次白井市産業振興ビジョン（仮称）の改定スケジュールについて説明をいただきました。御不明な点、確認したい点、もう少し詳しく聞いてみたいというところがありましたら、遠慮なく質問をお願いいたします。どうぞ、●●様でよろしいですか。

○委員

昨年度実施いただいた2回の会議において、A、B、C、D、E、F、G地区みたいな形で分けて、それに対して商業の誘致というところで、どういう形のことを検討するかというふうな議論を進めていただいたと思っています。

それを踏まえて、今回は具体的に、その土地において、例えば新しくデベロッパーさん含めて、例えばその地権者さんと一緒に、こういうことやっていきますよという話が来るのかなというふうに思ったのですが、今日の話はまた別で、計画見直しに伴って、それをどうしていくかというところがメインになっていくと。昨年度の話というのは、どういうふうに議論進んでいくのかというのはあるのでしょうか。

○委員長

事務局、お願いします。

○事務局

ありがとうございます。大変失礼しました。今回のこのスケジュール自体は、この計画の策定のスケジュールでして、先ほどのお話がありましたのは、企業誘致の関係のものということになると思いますが、企業誘致のものについては、また改めて別のタイミングで、この会議の中で、例えば第2回の中とか第3回の中など、毎回というわけではないのですが、そのあたりで別の議題としてお話をさせていただければなと思っています。

今回の議題のこの改定スケジュールというのは、あくまでも計画策定のスケジュールという形になりますので、別個のものというふうにお考えいただければと思います。以上です。

○委員

ありがとうございます。

○委員長

横から申し訳ないのだけれども、企業誘致のことは議題になりますか。報告事項でもいいかと思います。

○事務局

ありがとうございます。報告事項として、情報提供という形をさせていただきたいと思っています。

○委員長

ありがとうございます。ほかに委員の皆様、いかがでしょうか。どうぞ、●●委員、お願いします。

○委員

●●です。工業団地で経営者並びに勤務者の問題意識調査というアンケートを実施しました。その結果、回収率が非常に低かったけれども、あそこに出てきたものが、日頃、協議会から、市に対していろいろ要請をしています、こういう問題があります、こういうことについて御検討いただきたい、その結果とアンケートへ出てきたものが全くイコールであったと。常日頃から、我々が問題提起している問題について、市はどう向き合ってくれているのか、問題解決のために、一緒になってテーブルについて、討議をして改善策を探していくと、そういうような取組を常日頃から地道にやっていけば、このような大上段に構えなくても、日常的なその業務の中で改善できるのじゃないかな、そういった積み上げがとても大切ではないかなというふうに思っています。

市もいろいろな各部署がありますので、部署間の意思統一というか、部署によって、縦割りになっているので、隣でやっていることがよく分からないと、同じようなことを皆さん一緒になって、それぞれやっていらっしゃると、大変無駄ではないのかなと。逆に言えばもったいないなと、そんな感じを持っております。

●●さんからもお話があったように、調べればすぐ分かるじゃないかというようなことが、大上段に構えてアンケートを取って、検討して、会議を開いて、意思統一を図ってという、その手順って、常日頃から事細かに工業団地協議会からは情報提供しているので、そういったことをぜひ見ていただきたいと思いますと思っています。以上です。

○委員長

その点について、事務局、いかがでしょうか。

○事務局

先ほどお話をいただいた件も含めまして、データとして、こちらのものについては、踏まえた形でさせていただきたいと思っています。分析の中で、そのあたりのデータなども活用したいと思います。

ただ、先程に提案のありました税情報については使えませんので、傾向とかなどでは、

使えるものについては、データとして分析の中で活かしていきたいと思っていますし、工業団地協議会様のほうのアンケートについても、こちらのものを踏まえて検討していきたいと思います。

○委員長

ありがとうございます。税情報は魅力的な情報なのだけれども、あれ究極の個人情報だから、ちょっと触るのも難しいよね、いくら市が集めているとはいえ、部署が違くと目的外使用になっちゃうから。

今回のこのアンケートを実施して、その後の産業振興ビジョンの改定を進める際にも、既存のアンケートとかも一応踏まえて、総合的に検討するという理解でよろしいですね。

○事務局

はい、そのとおりです。住民意識調査なども行っているものがございますので、そのあたりのデータなども活用しながら実施して参ります。

○委員長

ありがとうございます。打合せのときに話が出たのですが、印西市と白井市が結構な差がついているということは、行政のほうも肌感覚で理解していますよと。ただ今回、印西、白井市を含めたこの地域に世界的な追い風が吹いているわけじゃないですか。それは既存の工業団地のアンケートでは出てこないことですよね。だから、そこをうまく活用したいというのが狙いだと思うのです。

その追い風って、はっきり言ってラストチャンスだと思うのです。だから、そこをうまくつかまえて、それで既存のこういうアンケート調査をしていくと、どうしても郷土愛にあふれた回答が返ってくるというのは大いに予想できるものですから、そういう住民の方々の思いも酌み取った形で、このラストチャンスに近い追い風をいかにつかまえるかという方針を打ち出すのが、スマートな選択になるのじゃないかなというふうに私は考えます。どうぞ、●●委員。

○委員

今の委員長の意見もあって、外部のアンケートとかもこれからやっていく予定もあるのですが外部の企業とか、白井市がどう見られているかみたいなのところをあくまで可視化していくところをやっていくというところが、まず1点と。

あとは、来年に予定されている庁内調整みたいなのところも一つもあると思うのですが、結構その中で細かく確認を庁内でもしたほうがよいのかなと思います。そこら辺、何か分けて、例えばクォーターだとか、半年に2回とかやっていくのがいいのではないかなというのはどうでしょう。

○事務局

ありがとうございます。後のほうの庁内調整については、今現状このような形にはなっ

ていますが、最後の詰めをここでやるという形になりますので、それ以外については、適宜行って参ります。

例えば、次回以降の会議になると思いますが、この審議会でこういう意見が出てきたといったときに、まずは計画に載せられるか載せられないかというのは、他の計画などとも調整をして参らないと、この計画に載せられませんので、そのあたりについては適宜行っていきます。また、今お話ありましたので、定期的にこういうふうな形はどうだというのは検討していければなというふうに思っています。

最初の部分の外部へのアンケートについては、市外事業者へのアンケートというのは予定をしていたところです。それについては、どのような形にするかというのは、アンケートというかヒアリングという形を考えていましたが、そのヒアリングについて、どういう形にするかというのは、今現在、検討中なのですが、御意見頂きましたので、そのあたりも含めて検討していきたいというふうに思っています。以上です。

○委員長

ありがとうございます。

ほかに委員の皆様、よろしいですか。企業誘致とかで、先方のほうから接触してきたところだけは、ヒアリング調査できると思うので、そういうところをぜひ把握しながら進めていかれるとよいのではないかと思います。

○事務局

ありがとうございます。

○委員長

では、次に進めさせていただきます。議案（３）アンケート（案）について、事務局から説明をお願いしたいと存じます。

○事務局

続きまして議題３アンケート案の説明をさせていただきます。資料１の４ページをご覧ください。

（１）アンケートの目的ですが、本調査は、アンケート調査とヒアリング調査の２つを実施します。アンケート調査は、市民、農家、事業者を対象にして現状や現在抱えている問題、今後の方針の傾向を把握することを目的に行います。そして、ヒアリング調査では、アンケートで把握した傾向の背景にある市民・事業者等の個別の事情を深掘りすることを目的とします。

調査をより有効なものにするために、既存の調査結果から産業ごとの今後の動向やリスクに関する検証するための調査項目（アンケート項目）を設定するという手順で調査設計を行います。

次に（２）アンケート調査の対象については最初に申し上げたとおり市民、農家、製造業・商業いわゆる事業者の観点から３種類を行うこととします。

資料５－１をご覧ください。市民は年代別に１５～２４歳、２５～３４歳、３５～４４歳、４５歳～５４歳、５５歳～６４歳、６５歳～７４歳、７５歳以上の計７階層に分けて住民基本台帳を基に計８００人を無作為抽出します。この８００人は白井市の年代別人口のバランスによって振り分けます。

農業者については農業委員会の農家名簿から１００人を抽出します。

事業者は法人税台帳２０３２社から８００社を抽出します。

なお、農業においては、事業者のほとんどが個人経営であり、法人とは異なる回答選択肢等が必要であることから、製造業・商業とは調査票を分けます。

（３）実施方法については別添資料５－１～５－３を送付し返信用封筒を同封します。

対象者はアンケートに記入し返信用封筒にて返送もしくはアンケート記載のQRコードを読み取りWebから回答のいずれかの方法で回答します。

なお、ヒアリングについてはアンケートにてその旨を記載し事前に了解を頂いた方を対象に実施予定です。

（４）アンケートで明らかにしたいこととして市民については

- ①市民の就業において市として支援すべき課題はなにか
- ②日常消費において市として支援すべき課題はなにか
- ③製造業、商業、農業については
- ④規模や取引先の観点で、どのような事業者が市内に存在するか
- ⑤市産業を維持・成長させるうえで、特に支援すべきなのはどのような事業者か
- ⑥行政として介入すべき課題はなにか

を明らかにしたいと考えております。

続きまして、具体的な分析の意図、観点について説明します。資料４をご覧ください。

１ページは市民向けアンケートの分析観点となります。お手元の資料５－１と合わせてご覧ください。例えば大論点の２つ目、「市民の就業において市として支援すべき課題は何か」を明らかにするために問５から問１４の設問を設けており、小論点の「これから就職する人」はどの程度かを測る必要があり、これを知るためにアンケートとして問５及び問２の設問を設けています。それでは具体的に確認をしていきます。

問５として職業を調査しており問２として年齢を調査しています。

これから就職する人ですから問５のうち、ア 学生からキ 家事・育児から働いていない人までがこれから就労できる人の分母となっています。

また、問２の年齢を加味して分析することでこれから就職する人が推定できます。

このような観点からアンケートを設計しております。

同様に農業者向けアンケートについて資料４の２ページを及びアンケート５－２をご覧ください。

大論点の３つ目として「介入すべき課題は何か」を明らかにするために問１２～１７の

設問を設けており、小論点の「事業承継における問題はなにか」において明らかにするために問2代表者の年代と問12の「事業承継の意向」を設けています。

製造・商業者向けアンケートについて、資料4の3ページをご覧ください。

大論点の3つ目で「介入すべき課題は何か」を明らかにするために問18～24の設問を設けており、小論点の「資金繰りにおける問題は何か」において明らかにするために単純集計の問24「資金繰りの課題」とそれに合わせて問23「直近利用した資金調達方法」を設けています。

大変長くなりましたが議題及び資料についての説明は以上となります。既に御存知のことなどもご説明させていただきましたが本日は「どのようなアンケートを行ったらよいか」を御審議頂ければと考えております。

よろしくお願いいたします。

○事務局

申し訳ございません、補足をさせてください。

先ほど、アンケートが不要ではないかというようなお話を頂いているところです。

ただ、こちらについては、昨年度の中でアンケートを実施する旨については、皆様にもお諮りをしていたところもあり、私どものほうも、現状の把握については確かにアンケート以外でもできるのですが、意向の部分は、アンケート以外の方法で難しいということを考えておりまして、アンケートをしたいというような形で今回、皆様にお示した次第になっております。

分析については、既存のアンケートなどや既存のデータを使って分析の精度を高めて精緻にやっていきたいと思っておりますけれども、このアンケートについて、皆様から意見を頂きたいと思っております。以上です。

○委員長

ありがとうございます。委員の皆様、何か御不明な点、確認したいこと、もう少し詳しく聞いてみたいということがございましたら、遠慮なく御質問をお願いいたします。一般的なアンケートの項目です。どうぞ、●●委員。

○委員

●●と申します。梨の農家が減っているというのは、生活をしていてすごく、今まで一生懸命作ってきたのが切られてしまったとかいうのをよく見るのです。

それで、もう大分前ですけども、梨の若手生産者組織である梨友会青年部の●●さんという方が講演してくださって、どんな梨があるかとかと聞いたときに、若い人の後継者を育ててほしいということを言いましたら、個人の将来に関わる場所までは踏み込めないと彼が言ったのです、40半ばぐらい、それは確かにそうだなと思ったのですけれど。

ただ、市として、例えば市長方針や市の方針で、その観光の白井で売るものって梨だと思うのです。耕地面積を減らさないで、そこの地主さんは無理にしても、どこかで何か提

案をすることを考えると、そういうことは不可能なのではないでしょうか。もっと広い範囲の、市が入り込むというか、市長さんの方針で、このようにやったらどうか。例えばアンケートも、現状だけは把握できるのですけれども、その後の方針まで踏み込めるような。自分が例えば、これをなくすけれども、誰か市の段階でやってくれる人がいたら、どうなのだとか、そういうところまでアンケートで答えが出てきたら市を挙げてやるという方針がなければ、できないことではありますけれども、そんなふうに思いました。

○委員長

ありがとうございます。では、事務局、いかがでしょうか。

○事務局

ありがとうございます。今お話しいただいた事業継承の話についてなのですが、農業者向けアンケート、お手元の資料の4の2ページを御覧いただいてよろしいでしょうか。資料4の2ページ、大論点ということで3番目のものが、行政として介入すべき課題は何かという意向を聞くものになっております。このうち、今の事業継承における問題は何かというのが、今、委員がお話しいただいたようなものを把握するための一つなのかなと思っています。

梨のことについては、委員の中には梨をやられている委員もいらっしゃいますけれども、課題がいろいろあるというのは、お話をする中でも聞いております。今回アンケートという形で別途聞いていきたいと考えて、この中で設問を作らせていただいたところです。以上です。

○委員長

どうぞ、●●委員。

○委員

このアンケートの中に、梨農家の農業法人化を市が音頭を取って推進しますよ、このことについて、皆さん法人化に関心ありませんかというような設問はどうでしょうか。

○委員長

事務局、いかがでしょうか。

○事務局

ありがとうございます。梨農家に限らず、法人化の意向について入れたらどうかという御提案だということになるかと思いますが、検討して参りたいと思います。少しほかのものと組み合わせて対応していきたいと思います。

○委員

農家の方は、やっぱり土地と仕事の関係が非常に深いので、どうしても土地の活用等、なかなか微妙な問題はありますけれども、とにかく資産を保全したいという気持ちと、農業は続けるのは難しい、でも梨やれるんだったら、やってみたいという、そういうところを市が音頭を取って、みんながウィンウィンになるような関係を構築できれば面白いの

ではないかなという感じはしました。以上です。

○委員長

ありがとうございます。ほかに委員の皆様、いかがでしょうか。どうぞ、●●委員。

○委員

●●と申します。アンケートが現状把握という捉え方なのですけれども、最後に必ず、行政が介入すべき課題は何かとあるのですが、行政は既に課題をいろいろなところで持っているはずです。遊休農地の問題、後継者不足の問題、企業誘致の土地の問題、工業団地のインフラの問題、そういった課題を持っているのであれば、その課題のうち、どれが皆さん、望むべきかというような項目を加えるべきだと思います。

遊休農地を改善してほしいのか、農業後継者を育成してほしいのか、あるいは代わりに農業をやっていただくところがあるのか、あるいは農地の拡張をする土地を市として助成するのかとか、そういった既に持っている課題をこのアンケートでどれが優先すべきかというのを選んだほうが、行政がとるべき方向というのは、一目瞭然でアンケートに出てくるはずで、その辺いかがでしょうか。

○委員長

どうぞ、事務局。僕は多分、全部に丸つける。

○事務局

ありがとうございます。今、委員からお話いただいた内容については加えたいと思います。また、委員長がお話いただいたように、優先順位をつけるのか、そのあたりについては、基本的には全てなのかもしれませんが、優先順位をつけるなどして、何を市としてやっていくべきかということを明確化していきたいなと思っております。

以上です。ありがとうございました。

○委員長

●●委員、お願いします。

○委員

アンケートについて、先ほど、市のデータで分かるのではないかという話をしたのですけれども、市で把握している内容の答え合わせがただ出てくるだけなのじゃないかなと思います。今、●●委員がおっしゃっていた議題というか、課題が出てきて、やっぱりそうかというので、多分終わってしまうような気がするのです。であれば、その課題に対して、具体的に何をすべきなのかということを議論したほうが、私はいいのかなとすごく感じました。

○委員長

難しい話ですね。

○委員

アンケートはいいのですけれども、答え合わせ、把握している答えが出てくるだけかな

と。本当に率直に。前回、アンケートを取るという話に対して、やめたほうがいいとは私、その時点で言っていないです。ただ、このアンケートを見て多分もう市が既に把握している答えが出てくるだけかなと。

○委員

すいません、補足していいかしら。

○委員長

補足なら。

○委員

ずれるかもしれないけれども、先ほど農家の課題なのですけれども、うちの近くで、かなり大きく梨屋さんをやっていたのですけれども、御主人が亡くなって、その後、はっきりは分からないのですけれども、どこかの団体さんというか、不自由な方たちの施設をやっていらっしゃる方が梨のほうにも手を出して、今、結構大きく、その跡を継いでやっているのですよ、一生懸命。そういう例もありますので、もう少しいろいろなところを見て回ると言ったらおかしいかしら。

○委員長

事務局、戻します。

○事務局

最初、お話のアンケートについては、確かに答え合わせなのかなという部分もあるとは思いますが、ただ、結果的にそうになってしまう部分もあるかもしれませんが、税金を使うという観点からすると、そのあたりの部分は必要な部分もあると思っています。

ただ、それ以外のものというのも、ひょっとしたら出てくるかもしれません。例えば、市が理解していない、もしくは今、動き始めていて、市まで伝わっていない課題というのがひょっとしたら出てくるかもしれませんので、アンケートをすることについては、一定の必要性があるのかなというふうに思っています。

もう一つの第3者への事業承継のものというのは、私も、その事業所については存じ上げておりますけれども、それ以外の事例ヒアリングなどを重ねて実施することで、話を聞いていくということは考えておりますし、実施する予定ということでお示しをしているところです。以上です。

○委員長

ありがとうございます。アンケートはやるのですけれども、それを肉づけするような形で、既存の市内の他の団体が実施した、工業団地とか、そういうところのアンケートや農業事業者さんを対象にしたアンケートとか、そういうのも鑑みて、総合的に検討を行っていくということですね。

○事務局

はい。

○委員長

ありがとうございます。どうぞ、●●委員。

○委員

アンケートを実施することに対して、具体的に解決策をどういうふうにして決めていくのか。取って終わりではなくて、ディスカッションしながら、二・三回、たたき台で、どういうふうな具体策に落とすかというところをやっていただくほうがいいと思うのですが、そこら辺の方針だとか進め方ってございますか。

○委員長

それ、委員会の範疇を超えているような気がするけれど、委員会の範疇なの、今の話は。

○事務局

今回のアンケートについては、記名でのアンケートという形になりますので、ある程度把握できるものについては押さえていきたいと思っています。アンケートと直接連携してということは考えていません。ただ今後、計画策定の段階で皆様と意見共有をしていきたいと思っています。ご提案は計画ができた後の話でしょうか、この部分は、今のところいなかったところです。

○委員長

ありがとうございます。僕も今の●●委員からの質問を受けて、どう取り扱っていいかわからなかったのが、ちょっと確認させていただきました。

ほかに委員の皆様、いかがでしょうか。どうぞ。

○委員

●●です。お願いします。アンケートって、これ、そのままということですか、これで終了というのは、先ほど何か新しい意見が出てくるかもしれないとおっしゃっていたのだけれども、フリーハンドの部分がほとんどないのです。ということは、ここに入っている中から選ぶしかないの、新しい、何か考えることが出てくるのかといたら、出てこないのじゃないかと思うので、何かフリーハンドの部分があれば、すごくいいかなと思いました。以上です。

○委員長

ありがとうございます。では、事務局、いかがでしょう。

○事務局

ありがとうございます。今、お話がありましたので記述欄については付け加えます。ありがとうございます。

○委員長

ありがとうございます。委員長として伺いたいのですが、農業者向けアンケートと製造・商業者向けアンケートを見ていくと、行政として解明すべき課題が全く同一のように見えるのだけれども、ここ何か違いを打ち出さなくていいのですか。

僕は、白井の梨って割とおいしく食べさせていただいた経験がございますので、何で千葉県って、ここに地域ブランドとして確立しないのかというふうに思っているのだけれども、残念なことに、千葉県の地域ブランドの対象になっているものって全くないのね、なぜか知らないけれども。そういうようなことって、市を越えて県にも要望できるようなことあるのだけれどもなとかと思うのだけれども、そういうブランディングも、質問項目として、農業者向けと製造業者向けとで何か付け加えられるのじゃないかなと思ったのですが。これは感想です。

○事務局

ありがとうございます。こちらについては、どういう形がいいのかはありますけれども、今回せっかく皆様のお話を聞いていますが、質問数が大幅に増えてしまうと回答しづらくなってしまいますのでバランスを取る必要がありますが、そういう意見の部分は反映できるような形にしていきます。

○委員長

あともう一点、これアンケート実施するときって、どういうやり方にするのですか。聞き漏らしたかもしれないので確認したいのだけれども。紙媒体見ながら回答していくような至れり尽くせりのようなアンケートをやるのか。それとも、市のホームページで、こういうふうなアンケートがあるから、QRコードでスキャンして、それでスマホで答えてねというふうな形にするのか。それによって、アンケートに対する回答率って変わってくるのだよね。

○事務局

ありがとうございます。資料1の4ページの3でお伝えしたところなのですが、郵送をしまして、基本的には返信用の封筒で回答していただくという形をとっていますが、郵送する書類については、QRコードをつけますので、パソコンやスマートフォンとかでやったほうが早いという方もいらっしゃると思いますので、どちらも対応できる形を考えています。

なお、このアンケートについては、誰でも回答可能という形ではなくて、無作為抽出という形を考えております。

○委員長

ある種、市のアンケートに見事、幸運なことに当選した方々おめでとうございます。実にうらやましいです。

○事務局

製造業に関しては、割合としてかなりの確率なのかなとは思っています。

○委員長

ありがとうございます。では、ほかに何か。どうぞ。

○委員

●●と申します。僕も農業者なのですけれども、紙媒体で来るからアンケートを返信しますけれども、QRコードを読んで、御自由にどうぞだったら、絶対しません。今、ペーパーレスで、そういう時代かもしれませんが、無駄かもしれませんが、そういうやり方のほうがアンケートの回答率は高いと思います。

○委員長

ありがとうございました。ほかに委員の皆様、いかがでしょうか。どうぞ、桐山委員、お願いします。

○委員

●●と申します。もっと細かいことなのですけれども、市民向けアンケートの案の最後の設問で、食料品、日用雑貨品の買い物についてという表がありますよね。これは通販とかは全然聞かないのですか。すぐ買うので、すごいですよね。だから、もちろん市内の商業を盛んにしなきゃいけないのですけれども、そのところいかがですか。

○事務局

ありがとうございました。助かります。加えます。

○委員長

それに関連させて、農業者の方に、販売促進を支援するという形の行政介入課題ってないの。行政が介入すべき課題として、梨農家の方が通販にもっと力入れられるような取組を支援するというのは。これだと、どこになるのかなって見えないから。

○委員

じゃあ、一つ、その答えを。

○委員長

●●委員。

○委員

●●と申します。先ほど●●委員のほうからも御指摘というか、梨農家が減っちゃっているのじゃないかという話なのですけれども、ブランド化の話って前に出ましたよね。今、実際は梨が足りないのです。

○委員長

そうなのですか。

○委員

多分、梨農家自体が全国的に減っていると思うのです。白井もしかりなのですけれども、梨が足りない状態で市場価格もすごく上がっちゃっている。例えばブランド化したり、ネット販売したりという余裕がない感じです。

○委員長

失礼しました。

○委員

ものがないのですよ、作る人も減っちゃっている、それが一番の原因なのかもしれない。
あとは、早生品種に関しては、今年はすごくよかったのです。ところが晩生品種、9月半ばからの品種はほとんど駄目です。うちも多分3割は捨てました。そんな感じです。

○委員長

改めまして、戻りまして、●●委員、お願いします。

○委員

ありがとうございます。ちょっと細かいんですけども、先ほどフリーコメント入れるところですけど、市民のアンケートで、自分が今行っているところは把握できると思うのんですけども、今後どんなお店行きたいのですかを付け加えていただけるといいのかなと思っていました。

例えば今、主要小売であるようなところとか、スーパーとか、コンビニとかは入れている、サービス業とか、いろいろな商業にまつわるところのそういった業態、行かれている方々も多分いらっしゃるし、白井で行けなくても、鎌ケ谷とか千葉ニュータウンに行ってしまうというケースもあると思うので、そこを逃さないという点で、こんなところを把握していただけるといいのではないかなと思います。そこ、需要ありますよというところで、呼びいただくというのは一つの手段であると思いますし。というところが1点かなと思います。

あとは、白井市内の働き手というところでいうと、例えばアンケートのところでいうと、項目の間14のところ、市内で働きたいみたいなのところも入れていただけたりとかしてもいいのじゃないかなというところは思いました。優先順位として、近場で働きたいみたいなのは多分あるのかなというのは。すいません、細かなところですが。

○委員長

ありがとうございます。ちょっと検討してみてください。

○事務局

検討いたします。そのあたりというのは、実は私たちも考えてはいたのです。ただ現状、白井市については御承知のとおり、書店ゼロ市の中の一つになっていまして、市内に書店がないということで、先日ニュースなどでも出ていたところです。

書店誘致の市民の要望というのはかなりあるのですが、ほかの手法と合わせて持つてくるとかという形などを考えていくという方向はあるのですが、単独でなかなか難しいという状況があります。せっかく意見として回答したのに、こんなにアンケートで結果高かったのに来なかったじゃないかという話になっても難しいかなということで、今回の案の中からは除いたところです。ただ、今、委員のおっしゃられたような形で、単純に欲しいという話だけじゃなく、何かそういうところでというのであれば、また少し違う考え方なのかなと思いますので、これについては、入れられるかどうかは分かりませんが、検討して参りたいと思います。

○委員長

ありがとうございます。ほかに委員の皆さん、よろしいですか。

それでは、終了時間も迫ってきておりますので、議題の3はこれで終了したいと思います。よろしいでしょうか。

続きまして、次第に沿って進行を進めさせていただきます。その他についてです。事務局、何かございますでしょうか。

○事務局

今回、通知文の中に、こちらで1文をつけさせていただきましたが、12月に実施予定の第2回ネットワーク会議の日程を、ここで決定したいと思います。

(中略)

それでは12月16日(月)午後2時からということで進めさせていただければと思います。場所等については、また近くなった時点で、追って御案内させていただければと思います。

以上です。

○委員長

ありがとうございました。

それでは、これをもちまして、令和6年度第1回白井市産業振興ネットワーク会議を終了いたします。本日、長時間にわたり御議論いただきありがとうございます。

○事務局

ありがとうございました。